

お茶の道

お茶の道
松子



わがこゝろをいかに
かたじけなくおもひ
まはるゝことなほ
おもはるゝ



常河をたゞ知る事ありては
そのひまをいづれにむ
敷く花よかれは波も静か
まのつらきも。又流るる
わがこゝろをいかに
かたじけなくおもひ
まはるゝことなほ
おもはるゝ
とあはれはなほ
とあはれはなほ
とあはれはなほ

凡村
北鳳
村
村
村
村
村
村

君かた〜
 昔かた〜
 人かた〜
 鳥かた〜
 鳳 村 鳳 村 鳳

白 白
 昔 昔
 白 白

三井ちの曲を〜
 夕雲のそ〜
 菊さ〜
 婦〜
 昔 昔
 素 外
 桂 五

〃〃〃
 〃〃〃
 〃〃〃

武徳の松のかりをかりかろ
 するまらゆり、端平の角
 けいせいのまゝいふはまの海の時
 附東のちくく買子けぢり
 風雲変は鏡をくむ満くせ
 春の梢りせする急く枝
 駒をのけしとたほをよ呼おて
 胡準
 莫二
 支
 喜
 梅支
 吾喜

油谷瓶形巻次韻

やとひのりしわかれきりきり
 いろくの月をさあつて八十年
 婿のちりぬのこむき波風
 ぬちうかむむきうてゝ白塔
 空の移すことの愛し藤のささり
 東の向をきくをけふつく琴
 ちくく白雲の移す柳葉
 空の喜れ袖を被よ入るや
 南平
 昔又
 投雲
 曾外
 白塔
 也亮
 託安
 六甲
 南平

流の瀬の事いぢいぬ二月

窪鴨

春の山也神の傳もささる

卓池

青舟の垣をこくみのまをり

南平

正月の月およ拾ふ船の那

文江

舟のまをりぬる船のあし梅のまを

羅城

梅の月あふせつりてあぬこり

五朗

風かきちりりる船の角

東江

田の清水のまをり大徳寺

椿堂

舟のれ駕のまをり鼻のまをり

きふ

蓬草のまをり江の柳のまをり

台菴

田のまをりたのまをりあまのり

小岩

田のついで十のあまのり柳のり

北風

身まゝのいもつけられん白麻

雪のつら〜〜〜雪のつら〜〜〜

〜〜〜女 扇雪

あ〜〜〜 蓬寸

落のまゝまのむ〜〜〜

あ〜〜〜 入赤

山まをむのまのあ〜〜〜

切株のた〜あ〜たのまのあ

か〜〜〜 林明

ち〜〜〜 天老

提〜あ〜 滝員

張束のま〜あ〜 玉洞

あ〜あ〜 翁養

ま〜ま〜 子孝

ま〜ま〜 冬樹

へ〜あ〜 岳括

素の
 夕露の音のこもる
 六甲
 勿言
 巾右
 也免
 雄測

○

乙二
 斜江
 岩外
 和堆
 故更
 柳莊
 仙市
 九射

桂子
 宿鴨
 長砂
 丹吉
 大奠
 徳書
 亞弓
 晴原

浮きもほ〜あはれ見もよ
 縹碧

梅の尾もと

戸の垣も控まきいへの月涼〜 秋ま
 半馬の首の尻書かめ月あ 年々
 う〜
 夕まの流あは〜り田交の心
 雨の横〜
 時央

二七〇

素染
 月社
 呉省
 東据
 冥と
 廿有
 大阜
 方明

夫た
 投雲
 梅史
 樗和
 里川
 菅父
 長安

信々松の葉の香の

貝の香の

まーの海の子の香の

今世の子の香の

まの香の

松の香の

あまの海の子の香の

可なり松の葉の香の

藤子

雲華

香川

之曲

洞月

梨冠

玉屑

士朗

文成松の葉の香の

あまの海の子の香の

松の香の

水風

堆澗

あまの海の子の香の

いかに松の葉の香の

白塔

白園

あまの海の子の香の

松の香の

曉臺

文化部之喜之日

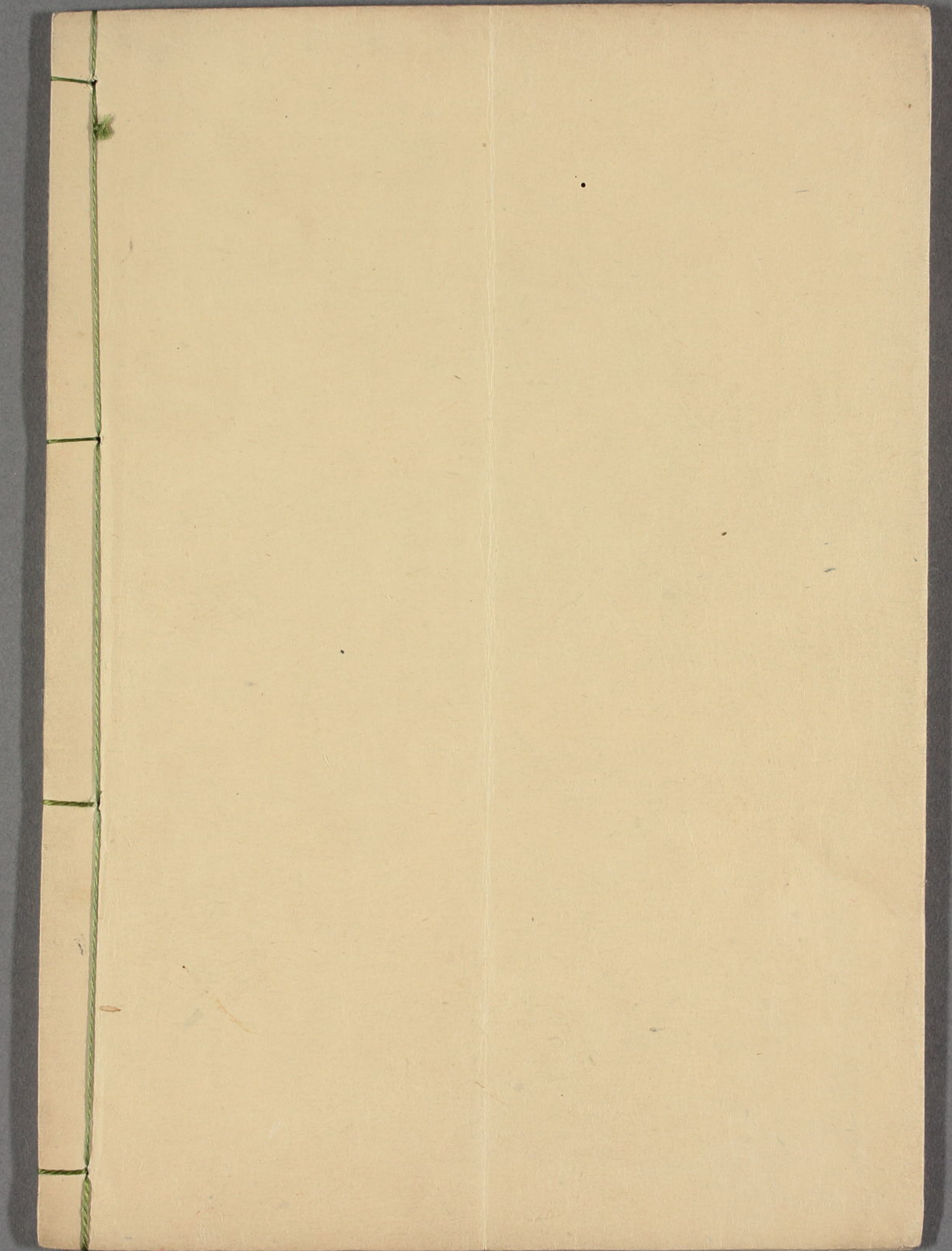
仙臺

北風撰
雄淵授

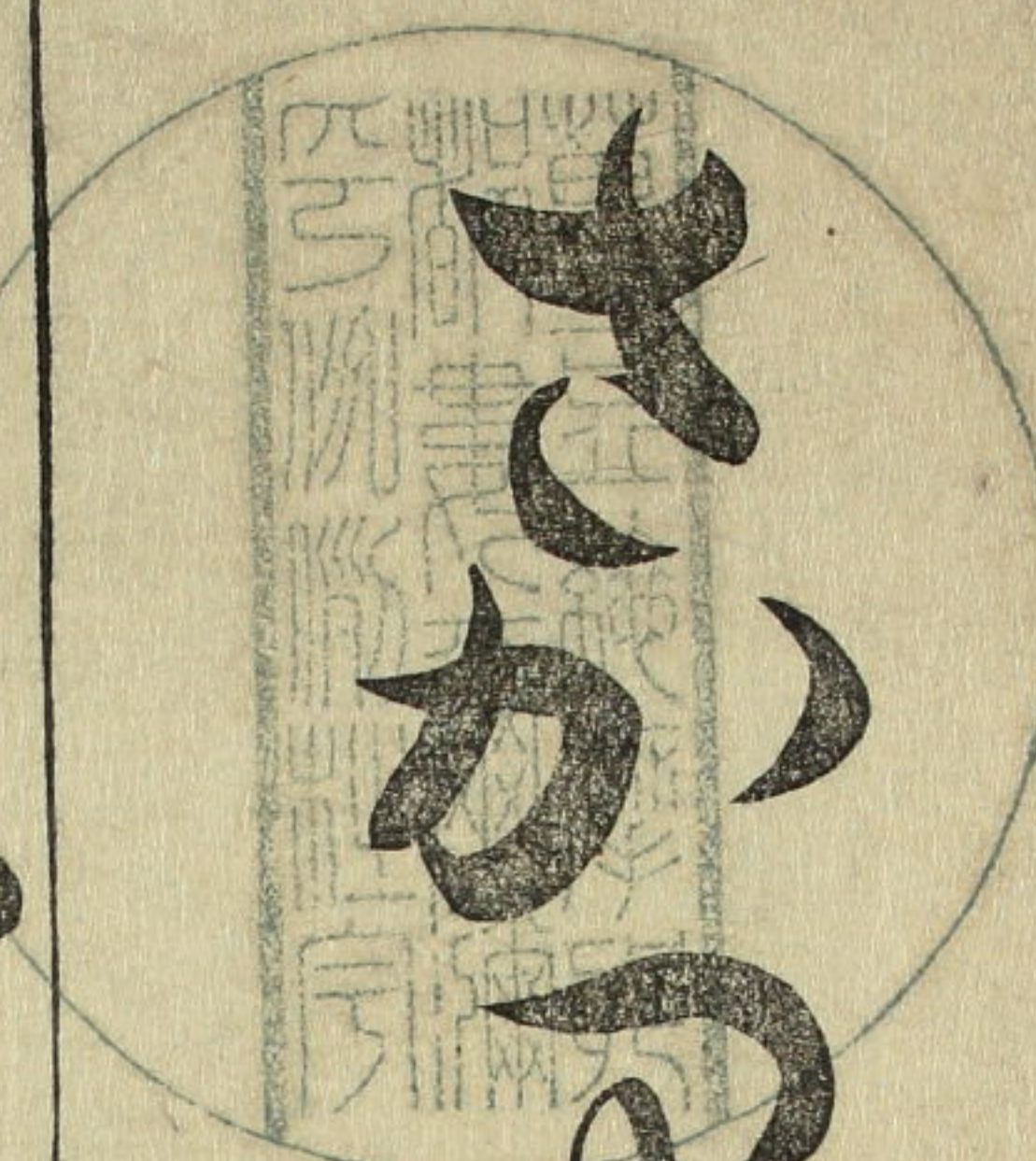
個人研究費

雲英末雄

55-01723



大かむさか



仙

北鳳郷

